

顧客本位の業務運営ができていますか?!



通常総会・会員大会の会場のようす

大阪代協

第12期通常総会 ・会員大会開く

災害対応で信頼得る 代理店の存在意義を確信

総会では、山中会長が挨拶に立ち、「昨年は、6月の大阪府北部地震、9月の台風21号、24号と、災害の少ないと言われている大阪にとって大災害の1年であった。私も代理店人生で初めて経験する事故数であり、1日中契約者宅に訪問する日

大阪代協(山中尚会長)は、5月23日午後1時30分から、大阪市中央区北浜の大阪クリンビル大阪損害保険会館で、第12期(第57期)通常総会・会員大会を開催した。総会には会員116名(委任状516名)が出席した。会員大会では、2025年日本国際博覧会協会総務局総務部事業調整課の森栄子課長が「万博の招致を目指す大阪・関西の未来」と題し講演を行い、万博の意味するものや大阪・関西万博のグランドデザインなどについて紹介した。



山中会長

が何日も続いた。しかし、支払後は軒並み感謝の言葉を聞いた。契約内容を根本から見直した契約も多くあった。保険という仕組み、我々代理店の存在がお客様のお役に立っていることを確信できた1年であったと思う」と述べた。一方、代理店を取り巻く環境が厳しい状況であることも踏まえ、「保険代理店が残っていくためには、有事・平時の区別なく、いかにお客様に支持され、必要な存在と認められるかが極めて重要だ。改正保険業法が目指すところの『顧客本位の業務運営』ができていくかどうかを、厳しく自

らに問い続ける必要がある」と強調した。その後、第1〜第7号議案が審議されすべて承認された。会員大会では、来賓紹介の後、来賓を代表して財務省近畿財務局理財部金融監督第四課保険監督室の田中雄介室長が挨拶に立ち、代理店に期待していることとして「顧客本位の業務運営」「保険



田中室長

募集体制整備」「自然災害リスクへの対応」の3点を挙げた。まず、顧客本位の業務運営については「顧客の2割程度にしか認知されていない現状か認知されていない現状において、代理店には顧客本位の理念のもと、代理店自らが創意工夫し、良質な保険商品・サービスの提供を競い合っている」とし、その取組みが顧客への浸透へとなることが、保険募集体

制整備については「代理店の規模や業務特性に応じて、体制の在り方が合理的で実効性のあることが重要である。顧客目線に立った保険募集に今一度立ち返って取り組んでいただきたい」と訴えた。また、昨年大阪を襲った地震や台風への代理店、損害保険会社の取組みを評価するとともに、自然災害リスクへの対応については「顧客との接点である代理店には、日ごろからの地域に密着した活動を活かし、保険会社と連携し、地域のため、顧客

のために最善を尽くしていただきたい」と話した。地震保険の普及が大阪は全国で突出している。皆様のご協力もあって、大阪では2月末時点で保有契約件数は約7%、新規契約件数は12%強の前年増加となった。これは全国的にも突出した進捗状況であり、今後ともご協力をお願いしたい。また併せて、募集品質を向上させるための損害保険トータルプランナーについても引き続きお願いしたい」と挨拶



森氏

引続き、損害協会近畿支部の米川孝委員長が「自然災害発生時の懸念がますます高まる中で、



米川委員長

講演では、2025年日本国際博覧会協会総務局総務部事業調整課の森栄子課長が「万博の招致を目指す大阪・関西の未来」と題し、万博が意味するものの説明とともに大阪・関西万博の招致に至る軌跡とグランドデザインについて紹介した。同氏は、昨年大阪に開催が決まった大阪・関西万博の招致に当初から携わってきた1人で、「万博は、一過性のイベントではなく、国の未来戦略として実施される国家プロジェクトである。『いのち輝く未来社会』をテーマに、万博が持つ『圧倒的な求心力・発信力』『世界との出会いによる人の交流促進』により、イノベーションを巻き起こし、日本経済の活性化につなげたい」と抱負を語った。



(損保版)

第1〜4月曜日発行
発行所 新日本保険新聞社
大阪市西区朝本町1丁目5-15
(郵便番号550-0004)
電話 (06) 6225-0550 (代表)
FAX (06) 6225-0551 (専用)
購読料 1か月2160円
(消費税、送料込み)

©新日本保険新聞社 2019

シンニチ保険Web
www.shinnihon-ins.co.jp
購読者専用バックナンバー
閲覧パスワード
mizukiroad
2019年8月5日 AMまで
※偶数月の第一日曜日正午ごとに変更